

令和4年12月14日

## 12月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調。県森連共販所の1～11月までの取扱量は18.6万m<sup>3</sup>(前年比103%)となった。荷の引取も順調である。スギ3m柱材は17,000円/m<sup>3</sup>前後、4m中目材も同じく16,000～17,000円/m<sup>3</sup>と保合。ヒノキは3m柱材は19,000円/m<sup>3</sup>台と保合であるが、4m中目材が25,000円/m<sup>3</sup>と強保合で推移している。

群馬県では降雪もなく原木入荷は徐々に回復傾向にある。製品の引き合いは首都圏、地場ともに少なく、例年の70%程度。スギの柱、平角、母屋、桁の引き合いも減少傾向にあり、土木用材も減少。売れ行きが悪く在庫が溜まりつつある。下地材、貫、胴縁等はだぶついている。製品価格は全体的に現状維持で推移。

### 2. 米材

米国内の製材品価格は10月に底打ち気配を見せたが、11月に再度下落基調となった。しかし流通筋の手持ち在庫が薄いため、そろそろ底打ち反転といった見方が一般的である。原木価格も製材品価格に連動し調整中ながら12月は例年伐採が減少するため、調整幅は限定的になるものと予想される。ウェアハウザー社のストは10/28に終了し通常稼働に戻った。冬場の天候に移行しているが伐採に影響はなく、港頭在庫も平年並みである。米マツIS級並の12月積み対日輸出価格は前月比\$20下げの\$1,150/千SCRで妥結した模様。一方、カナダ側では11月下旬に降雪が酷くなる場所が広がっており、伐採を手仕舞いするサプライヤーも出始めた。元々少なかった港頭在庫が更に減少している。産地工場は減産を継続している。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(12/7)は\$436/M、3月の今年最高値\$1,334/Mに比べ約1/3の水準に下落している。

10月原木入荷は151千m<sup>3</sup>で前月に続き低水準、1～10月累計は1,927千m<sup>3</sup>(前年同期比1.5%減)。出荷は148千m<sup>3</sup>で低調、1～10月累計は1,959千m<sup>3</sup>で前年同期比0.3%減。在庫は増加し175千m<sup>3</sup>となり、在庫率は0.88ヵ月で1ヵ月を下回った状態が続く。輸入製材品の荷もたれ感と住宅着工の不調で国内挽き製材品の荷動きも緩慢で、国内製材各社は減産傾向にある。東京木材埠頭の11月製品入荷は12千m<sup>3</sup>(前月比23.6%減)、出荷は19千m<sup>3</sup>(同18.5%)

増)、在庫は 38 千 $\text{m}^3$ (同 16.1%減)。正角では 105 角の荷動き悪いが、90 角は通常の動き。

### 3. 南洋材

サラワク州では既に雨期入りしているが、出材に大きな影響はなく平年並み。ただし出材の大半は小径木である。11月のサラワク積みはインド向けが中心。インド向け FOB 価格は供給過剰で弱含み推移。PNG、ソロモンでは 11 月後半に雨期入りした。中国向けは依然低調。サバ州では天候が伐採に大きな影響を与えるほどではない。日本向け成約は依然ないが、中国、ベトナム向け輸出は確認された。12 月予想の原木入荷は 0 千 $\text{m}^3$ 、出荷は 5 千 $\text{m}^3$ 、在庫 6 千 $\text{m}^3$ 。製材品入荷は 27 千 $\text{m}^3$ 。製材品は円安と国内在庫過多で成約は激減。

### 4. 北洋材

産地側では冬伐り原木の入荷が始まったが、工場の原木在庫は低水準。中国市場の低迷や欧州向けカラマツ製品の停止で主要シッパーはかなりの被害を受け、中小では廃業リスクが高まっている。現地挽き完成品は円安是正により買いやすくなってきたが、まだ野縁 4m の在庫が重く積極的な交渉には至らず。現地挽きアカマツ野縁 3m など一部の良材製品に不足感があるが、4m は潤沢なため未だ底値感が出ていない。国内製材工場では DIY/一般ルートとも受注量が回復せず、生産調整を実施している。ウッドショックでの高値により競合製品（鋼製野縁、スギ、LVL 等）にシェアを奪われている。10 月の製品入荷（東京+川崎）は 8 千 $\text{m}^3$ と減少傾向が続く。出荷は例年旺盛なシーズンであるが、13 千 $\text{m}^3$ と前月並み。在庫は 61 千 $\text{m}^3$ と 9 月から減少し始めたが、需要に迫力なく減少幅は限定的である。来年 3 月までは入荷が増えず、減少局面が続く見込み。

### 5. 合板

合板メーカーでは減産に伴い原木仕入を抑制しているが、仕入価格は下げず横ばい。今後、合板用原木も供給面でタイトになると予想されるが、価格が安定しており定量確保問題はないと見られる。

10 月の国内合板生産量は 22.7 万 $\text{m}^3$ 、うち針葉樹合板は 22.2 万 $\text{m}^3$ 、出荷量は 21.1 万 $\text{m}^3$ で在庫量は 16.5 万 $\text{m}^3$ 、うち構造用合板の在庫は 13.9 万 $\text{m}^3$ と前月より大幅に増加し、2020 年 6 月以来の高水準（在庫率 0.7 ヶ月）。11 月の生産量は生産調整や東北の工場火災により 10 月に比べ減少したと見られる。針葉樹合板の価格は横ばいを維持。生産調整が継続できれば相場も崩れず、実需に見合った水準まで荷動きは回復すると見られる。輸入合板は主要港の港頭

在庫が満杯で入港は減少しているが、出荷が鈍いためバランスの悪い在庫状況になっている。一部アイテムで品薄が聞こえ始めている。10月の合板輸入量は19.6万 $\text{m}^3$ (前月比0.5万 $\text{m}^3$ 減)で、マレーシア以外の主要国からは微増しているが、中国産がピーク時より大幅に減少し、針葉樹合板は3,842 $\text{m}^3$ (12mm換算19万枚)。インドネシアでは10月同様、日本、米国、韓国、中東からの引き合いが少なく市場は閑散としており、合板メーカーは減産措置を継続。マレーシアでは日本及び中東向けをはじめ他国向けの数量は減少し、10月は前年比でおおよそ半減。原木伐採量が頭打ちながら原料逼迫の声は聞こえなくなった。

## 6. 構造用集成材

ラミナは数量の多かった第2・四半期契約分の入港がほぼ完了し、第3・四半期契約分が入港している。各社とも港頭在庫の保管料増大への対応に追われている。第4・四半期契約は過去に例を見ないほどの少なさである。ラミナの第4・四半期契約価格は $\text{m}^3$ 当たり€300前後で每期€100ほどの値下がり。来年第1・四半期契約はスライドもしくは若干の値下げが予想されている。現在消費しているラミナ価格は80,000円/ $\text{m}^3$ 。輸入集成材の11月の国内流通価格は110,000~115,000円/ $\text{m}^3$ 周辺で、12月も価格は弱い見通しである。

## 7. 木材チップ(東海)

チップ原木は慢性的な原木の不足感が強く、製紙・バイオマス用とも引き合いは強い。解体材の入荷は例年並みだが、注文量をこなし切れない業者もいる。今冬の集荷に各社警戒感が強い。製紙用の使用量は順調であり、国産チップの増集荷基調は継続。燃料用は冬場に向けて使用量が増えるため各社警戒感が強い。樹皮の流通量も落ちており、手当増の動きもある。製紙、燃料用とも在庫の積み増しは例年以上に厳しい。

## 8. 市売問屋

国産材、外材ともにリードする品目がなく荷動きは悪い。記念市でも客が集まらない。WW製品の値下がりにより国産材製品も下げに入っている。価格が下げ基調になると、材木店は先安感から余分な材を買わなくなっている。土木用のバタ角(9.0cm角×3mと4mの並材)も不足感がなくなり、少し動きが止まってきた。

## 9. 小売

10月頃から秋需の実感があったものの長くは続かず、11月中旬以降見積は少なくなり、急激に売上も落ち込んでいる。全般的に荷余り感が強く、先安予想のため当用買いが続いている。スギ、ヒノキ構造材は弱含み推移である。外材製品の流通在庫の調整は進んできたが、荷もたれ感は解消されていない。

WW 集成管柱、RW 集成平角、KD 小割材は弱基調で推移。米マツ製品も国内大手製材の価格改定以降は弱含みで推移している。12 月上旬から中旬にかけて納品が集中しており、配送トラック不足に悩まされている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和4年12月14日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↘	↗	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↘
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↘
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	↘
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↘			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↘			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	↘			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↘
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↘
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↘
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↘
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→